

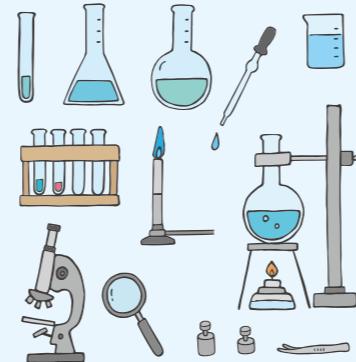
2025年(令和7年)11月19日開催

第9回地域連絡協議会での報告と主な意見

教育訓練について

【大学】令和7年8月よりスuits着用下でのウイルス取り扱い訓練を実施しています。取り扱うウイルスはハザラウイルス(ダニから分離されたヒトへの感染例はないウイルス株)、フニンウイルスCandid#1株(フニンウイルスの弱毒株でワクチン製造株として使用されているもの)、インフルエンザウイルスPR8株(ワクチン開発等に利用されている一般的な株の一つ)の3種類で、全てヒトへの病原性が認められないBSL-2で取り扱うウイルスです。具体的な訓練内容としては培養細胞を用いた実験、保存用ウイルスの作成、ウイルス保管容器の管理等を実施しています。保管容器の管理において、我々のセンターでは個々の保管容器に付いているバーコードを読み取って登録する管理システムを運用することとしています。

ウイルス取り扱い訓練に加えて、スーツ着用下での小動物を用いた訓練も実施しています。現在は、マウスを実験棟内の動物実験室に搬入して、実際に動物実験室の中でマウスを適切に飼うことができるかについて検証を行っています。またマウスに加えて、サルを使った訓練についても、隨時進めていく予定です。



屋外スピーカーの使用訓練について

令和7年10月28日に屋外スピーカーの使用訓練を実施しました。放送内容としては4音チャイム、いわゆる「ピンポンパンポン」という音を2回鳴らし、続いて「これは長崎大学屋外スピーカーの使用訓練です。」というアナウンスを流しました。その後に、今度は「ウーウー」のように3回のサイレン音を鳴らして、続いて同様のアナウンスを流しました。ここまでが1回分の放送です。この放送音が大学敷地外に届いているか否かを敷地外3カ所（平和町方面、平野町方面および江平方面）において確認しました。また大学敷地内の実験棟近くにおいて、希望される住民委員の方および長崎市役所職員に放送音を傍聴いただきました。音量を段階的に上げながら3回放送を行った結果、1回目は江平においては4音チャイムのみ聞こえましたが、平和町と平野町では聞こえませんでした。

3カ所いずれの地点においても4音チャイム、サイレンとも聞こえたことを確認しました。

住民委員 3回目の放送が防災行政無線の音量に一番近いと感じられ、一番聞きやすかった。放送音の確認者はこれから鳴ることが分かっているので聞こえていたのだと思うが、普通に買い物をしていたら分からぬかもしれない。当初は放送音がただ単に不安をあおるような感じになるのではと心配したが、それはなかったので安心した。

● **住民委員** 私は放送時に家の中にいて、たまたま電話がかかってきたりもしてよく聞こえなかつた。今後、条件を変えてまた放送するということ

であれば、もう少し状況の幅を広げてもらって、外にいる人だけが聞こえるのではなくて、家の中にいても聞こえるようなこともちょっと考えてもらえればいいのかなと思う。

●住民委員　家の中でテレビをつけていたりとか日常生活をしながら過ごしていたが放送音は何も聞こえなかった。3回目の放送が平和町で聞こえたというのは、多分外にいた方のみではないか。一方で、山の斜面に住んでおられる方々はよく聞こえたようだ。近くの住民にはやはり聞こえてほしいので、もうちょっと工夫が必要と感じた。

防災訓練、警備講習会、非常用備蓄について

令和7年10月28日に坂本キャンパスで行われた防災訓練にセンターから参加しました。具体的には水消火器を用いた初期消火訓練、さらには煙体験ハウスという無害の煙を充満させたテント内にて身をかがめながら避難する訓練を行いました。また令和7年10月8日に警備講習会を実施しました。具体的には警棒など警備用の道具の取り扱いについて講義が行われ、それを受けました。さらに令和7年10月に非常用食料等の備蓄を整備いたしました。具体的には保存水、それと食料としてご飯類や麺類等の主食や野菜ジュースなどを備えています。

●住民委員→地震が起きた時に原子力発電所につ

ミッションステートメントについて

●大学 他の研究機関等では多くの場合、機関の使命というものを掲げてますが、当センターでも使命となるものとしてミッションステートメントを策定いたしました。これはセンター教職員の自覚を促すとともに、外向きに我々がどういう研究センターであるかをお示しすること

住民委員 屋内にいたが全く聞こえなかった。自治会の役員の方々にもきいてみたが聞こえなかつたとのことだった。音量を上げるか、それが難しいようであれば防災行政無線のスピーカーを使えば、より音が届きやすくなるのではないかと思うので、そういう連携も検討いただきたい。



いては施設に問題無い旨、テレビでテロップが出ることがあるが、BSL-4施設でも同様のお知らせができないものかと思っている。

有識者委員 テレビのテロップについてはテレビ局が協力するかどうかによると思う。



を意図しています。今後、ミッションステートメントの日本語版および英語版の銘板を作成して、センターの玄関に掲げさせていただき、地域の皆さん、それから広く社会に対し、当センターはこういう使命を担って活動していますというのをお示しする予定です。

地域連絡協議会とは
高度安全実験(BSL-4)施設の運用状況に関する情報を地域の皆様へお伝えする
崎県、長崎市及び長崎大学で構成する三者連絡協議会に置かれたものです。

BSLとは

バイオセーフティーレベル(Biosafety Level)の略で、ウイルスや細菌などの病原体を生物学的な危険度で分類した指標であり、同時にそれらを取り扱う実験施設の分類です。病原体の分類は、その病原性(病気の重篤度、感染性等)、ワクチンや治療法の有無、公衆衛生上の重要性を考慮して、危険度の高い方から BSL-4～BSL-1 に分類されています。それに合わせて、実験施設も、病原体封じ込めレベルや管理レベルの高い方から BSL-4～BSL-1 に分類されています。感染すると、有効な治療法がなく、また予防法もない病原体(エボラウイルスやマールブルグウイルス等)にも対応できる、安全性を十分に備えた施設がBSL-4 施設です。